



平成21年4月27日

各位

会社名 株式会社エンチャー
代表者 代表取締役社長 遠藤 健夫
(JASDAQ コード番号 8208)
問合せ先 取締役経営企画室長 長谷川 英一
(TEL 0545-57-0850)

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年5月12日に公表いたしました平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成21年3月期 業績予想数値の修正

(1) 連結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	50,000	1,630	1,260	260	19.05
今回修正予想 (B)	48,540	1,454	1,135	124	9.06
増減額 (B-A)	△1,460	△176	△125	△136	—
増減率 (%)	△2.9	△10.8	△9.9	△52.3	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	49,178	1,389	1,030	562	41.18

(2) 個別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	48,500	1,510	1,150	220	16.12
今回修正予想 (B)	47,082	1,411	1,097	113	8.26
増減額 (B-A)	△1,418	△99	△53	△107	—
増減率 (%)	△2.9	△6.6	△4.6	△48.6	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	47,665	1,285	927	492	36.11

2. 修正の理由

(連結業績)

下半期以降、世界的な金融危機による市況の悪化、先行きへの不透明感等により、個人消費は落ち込みを見せ始めました。特に第4四半期には、その落ち込みは顕著となり、当社ホームセンター事業に多大な影響を与えました。あわせて暖冬の影響により季節商材の販売が振るわず、売上高は48,540百万円と当初予想を下回る見込みとなりました。

上記理由による売上高の減少に対し、販管費の圧縮、削減に取り組み、販管費率の改善を図ったものの、利益の減少を補てんするまでには至らず、営業利益は1,454百万円、経常利益は1,135百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、第3四半期までに計上しておりました棚卸資産評価損等に加え、投資有価証券評価損59百万円、賃貸借契約解約損38百万円を計上し、124百万円となる見込みのため、当初予想を修正いたします。

(個別業績)

連結業績予想の修正と同様の理由により、売上高47,082百万円、営業利益1,411百万円、経常利益1,097百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、連結業績予想の修正理由に加え、子会社株式評価損38百万円を計上し、113百万円となる見込みであるため、業績予想を修正いたします。

3. 特別損失の計上

- (1) 当社保有の有価証券のうち、市況の悪化により株価が著しく低下したものについて、減損処理を行い、投資有価証券評価損59百万円を連結、個別決算において計上いたします。
- (2) 当社連結子会社1社の期末純資産額が当社帳簿価額を著しく下回ったため、子会社株式評価損38百万円を個別決算において計上いたします。
- (3) 当社物流センター移転に際し、旧物流センター賃貸借契約解約に伴う違約金33百万円を含めた賃貸借契約解約損38百万円を連結、個別決算において計上いたします。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上